

カンボジア支援

## 円福友の会建設学校視察報告

四月十二日から十四日まで、長野県倫理法人会狩野会長や国際ボランティア委員会の皆さま六人と、円福友の会が二〇一六年にカンボジアに建設したプレイクチェイ小学校、タプル小学校の校舎と、一九九四年に建設して今は更地になってしまったドンソン小学校を視察して来ました。そのご報告です。

先ず、今回の行程をご覧ください。

四月十二日

成田発 10:50 NH817(ANA) プノンペン着 15:40 (日本時間は 17:40)

宿泊ホテルは東横インプノンペンホテル

四月十三日

ホテル発 5:30 プレイクチェイ小学校、タプル小学校、ドンソン小学校視察

ドンソン小学校発 12:30 シェムリアップ着 19:20

宿泊ホテルはロイヤルクラウンホテル

四月十四日

7:15 ホテルにてソファットさんとエコ村支援について打ち合わせ

8:30 ホテル発 アンコールワット観光 昼食

13:00 アンコールワット発 18:30 プノンペン国際空港着

プノンペン国際空港発 22:50 (日本時間 15日 0:50)

成田空港着 6:20 (日本時間)

日本語ガイドは、校舎を建設したキムホンさん。全行程 25 人乗りのバスでの移動です。かなりの強行軍でしたが、実りの多い楽しい旅行になりました。

以下、校舎建設における地元の協力、式典、ドンソン小学校と順に報告しましょう。14日はカンボジアのお正月の元旦でした。その様子にはここにこ法話に書きました。

### 校舎建設における地元の協力

円福友の会の校舎建設は、キムホンさんとのご縁によって、直接発注事業です。校舎建設にあたり、私は2016年4月に一人で現地を訪問して、区長さん、村長さん、地元関係者の皆さんといくつかの約束をしました。建設に協力することもその一つでした。

車中でキムさんからその具体的なお話を聞くことができました。

#### 一. ダンプカーで土砂搬入による敷地のかさ上げと大型パワーシャベルで大木の撤去

キムさんによると、校舎の地盤のかさ上げのためにプレイクチェイ小学校で大型ダンプ100台、タプル小学校で75台の土砂を入れたそうです。その土砂は地元の人が土砂業者やダンプ業者と交渉してお金(一台5ドル)を支払ったそうです。

整地の時に、ブルドーザーなどの大型機械が、そしてかさ上げの時にダンプカーが稼働している写真が送られてきました。一体、キムさんはこんなにも多くの大型機械をどうやって集めたのだろうかという疑問に思っていました。今回お話を聞いてそれが氷解しました。すべて地元の住民の協力だったのです。

ブルドーザーを手配し、こんなにも安くダンプを借りて土砂を入れることは、地元の人でなければできなかったでしょう。







建設前の祈願祭（地鎮祭）も、地元の人々が自発的に開催したものでした。写真には区長さん、村長さんなど主だったメンバーが写っています。区長さんには、大きな協力をいただいたと聞きました。区長さんがいなければ校舎は出来なかった。ダンプを通すのも、資材を運ぶのもすべてのことに国の許可が必要で



す。何しろカンボジアは賄賂ワーストワンの国ですから。ところが区長さんの一言ですべてが順調に進んだのでした。(写真の中心にいる方が区長さんスティーブリティブオンさんです。この方は立派な方で私をバイクの後ろに乗せて地域を回ってくれました。その時に、それぞれの家々のお年寄りに声をかけていました。たくさん嬉しそうなお年寄りが返ってきました。)

ダブル小学校には、校庭の真ん中に大きな木がありました。校舎を造るにはこの木を根から掘り出して伐採しなければなりません。

ここでも、日本製の大きなパワーシャベル（バックホー）が使われていました。一体このような大型機械をどのようにして、そしてどこから借りてきたのだろうかも疑問でした。これも地元の人たちが手を尽くして借りて来て、そして伐採した木は子どもたちが片付けていました。







## 二. 食事の差し入れ

キムさんと職人の皆さんは、小学校の土地から6時間も離れた、バタンバンから来ました。建設地は知らない土地です。食事は、旧校舎の裏でとりました。地元の人たちが何度も差し入れをしてくれたそうです。







この写真は、キムさんは犬の肉を料理したから、と言っていました。日付を見ると2016年7月18日で校舎が完成して、鍵を校長先生に渡した日でした。きっとみんなでお祝いをしたのでしょう。写真の中央にキムさん、その右横に区長さんが見えます。

### 三. カンボジアの人は寄付依存症か？

カンボジアの人は寄付依存症ということ、何人かの日本人に聞きました。私が初めてダブル小学校とプレイクチェイ小学校を視察した時も、会うなりに校舎の穴の開いた屋根や壁の破損を指さして、作ってくれと言ってきました。こんなに壊れるまで放っておいて、何が作ってくれかと腹が立ちました。内戦から20年もたっているのだから、もう国が校舎を建設するべきではないかという意見も聞きました。プノンペンのあるところで、校舎建設について、カンボジアで校舎建設を手掛けている人と意見交換した時も、カンボジアの人はもらうだけです、仕事を怠けますよ、時間を守りませんよ、期限を守りませんよと言われました。そんなことを聞いて、私も、カンボジアの人々の国民性についてすこし不信感を抱いてしまっていました。

しかし、どうでしょう。

今回の校舎建設に当たり、月収300ドル以下いや100ドル以下かもしれない、地元の人々が協力して、土砂の搬入、大木の撤去、工事の職人への差し入れなど精一杯の協力してくれていました。地元の人々は工事関係者を温かく包んでくれました。キムさんも雨季について約2ヶ月で立派な校舎を造ってくれました。(ダブル小学校は1ヶ月半)

土砂の搬入や大木の撤去の話聞いて、1校舎が5万ドル以下(坪3万円以下)でできたのは、地元の協力があったからこそと分かりました。とっても嬉しいことでした。

バスの行程の中でキムさんとたくさん話して、具体的な地元の人々の支援をたくさん聞いて、嬉しさが沸き起こりました。日本人のカンボジアの人々の見方は間違っていました。依存症に見えたのは貧しさ故のことでした。校舎の完成を地域の人々は大きな喜びで迎えて、そのためにできるだけの協力をするのです。

キムさんも、水の工面とかお金の工面とかで、あちこちを飛び回って誠心誠意、校舎を建設してくれました。

## トイレ建設

二つの小学校には、校舎と共にトイレを寄贈しました。喜ばれました。衛生面はとっても大切です。

キムさんのトイレの汚水処理はどうしているのですかと聞きました。すると浅井戸と同じコンクリートリングを地下に埋め込んで、地下浸透させるそうです。水は地下浸透して汚物は乾いてしまう。



写真は今回同行していただいた宮下繁明様が寄贈した浅井戸です。このような大きなコンクリートリングを地下に埋め込んで、汚水処理をします。





カンボジアの人はトイレで紙を使いません。便器の脇の水槽の水で流します。水洗です。日本のウォシュレットと同じです。手動ウォシュレットです。だから汚物は自然に戻ります。写真は新設したプレイクチェイ小学校のトイレです。今回は鍵がかかっている中を見ることはできませんでした。

## 式典

三つの小学校を訪問して次のことをしました。

校舎視察、私のあいさつ、校長先生のあいさつ、歌の交換、記念撮影

### 一. 校舎視察

校舎は綺麗に使われていました。両校舎とも校舎周囲のコンクリートが割れて修理されていました。キムさんによると、建設時は基盤面まで土砂があったのだが、雨水で土砂のレベルが下がって、その結果校舎周囲のコンクリートが浮き上がって、その力で割れてしまったとのことでした。

校舎は、基礎工事をしっかりやってあるので大丈夫とのお話でした。修理は地元負担です。

プレイクチェイ小学校で、校長が一教室を占領していました。その校長が帰り際に寄付を依頼して来ました。冗談じゃありません。校舎は教室が足りないから、子どもたちの教室に使用するというので寄贈しました。校長が一人で教室を使うことは絶対に許されないとキムさんに伝えました。この校長は、井戸を寄贈してあげたのにお礼も言いませんでした。

ダブル小学校は、東屋と国旗掲揚等が新築されていました。校舎建設の予算には入っていません。校長先生が建てたと言っていました。きっと地元の協力もあったでしょう。嬉しかったです。私の気持ちが伝わったのでしょうか。校長先生も嬉しそうでした。

写真は、校長先生にプレゼントを手渡しているところです。私の左が校長先生、右が長野県倫理法人会の狩野会長です。子どもたちへのプレゼントはすべて長野県倫理法



人会が寄付してくださいました。



写真はタプル小学校です。新しい国旗掲揚塔と校舎をバックにして写真を撮りました。地面はたくさんの土砂によりかさ上げされています。東屋は左にあります。その左にあった古い校舎は更地になっていました。費用は地元負担です。

プレイクチェイ小学校は古い校舎の2教室をまだ使用しています。3教室は雨漏りと壊れた壁に穴があいたままです。

## 二. 私のあいさつ 地元の人々や子どもとの交流



今回の視察にあたり、クメール語を少し勉強しました。あいさつで、「こんにちは」「私は藤本光世です。」「日本から来ました。」「私を覚えていますか。」をクメール語で話しました。通じましたよ。答えが返ってきました。特に、「私を覚えていますか」に集まった村の人々や子どもたちが「覚えていますよ」と答えてくれて、とっても嬉しかったです。心の交流ができました。

「何歳ですか？」も話したのですが、子どもがはにかんでしまって…。でも周囲の人の助けを借りて、お話しできました。カンボジアの子どもたちは小さいので年齢を聞いて驚いてしまいます。

### 三. 歌の交換

思いついて、子どもたちに歌を歌ってもらうことにしました。子どもたちは、カンボジアの国歌を歌ってくれました。キムさんに、カンボジアの人は国歌を歌わないと聞いていました。確かに2016年の校舎竣工式典では、国歌が流れて起立しても歌う人はいませんでした。でも、子どもたちは大きな声で歌ってくれました。(写真はドンソン小学校の子どもたちです。)



お返しに、プレイクチェイ小学校で国歌「君が代」を、ダブル小学校で県歌「信濃の国」を、ドンソン小学校で倫理法人会の歌「夢かざりなく」を歌いました。皆さん、応援団出身が多くて、とっても大きな声がこだましました。

円福寺のホームページに、子どもたちが歌っているビデオを掲載しますのでご覧になってください。(龍眼山円福寺で検索してください。)

### 四. ドンソン小学校

1994年に円福友の会は三つの校舎を建設しました。ダブル小学校は故笠原尚夫さま、プレイクチェイ小学校は円福友の会、ドンソン小学校は篠ノ井ライオンズクラブ



が寄贈しました。

このうち、ドンソン小学校の校舎は建設地が低かったために、雨季には水につかって校舎が傷み遂に壊してしまっていました。

初めて訪問したドンソン小学校は、街の中にありました。敷地は広く、大きな木と涼しい木陰がありました。前の二つの小学校が農村にあったのとは対照的でした。敷地内に国が作った校舎（コンクリート製）が3棟ありました。

式典が終わって、子どもたちを帰してから、私が質問しました。

皆さんが住んでいるところは、円福友の会が校舎を寄贈した二つの小学校の地域よりずっと豊かに見えます。カンボジアにはもっと貧しく、校舎が必要なところがあるのではないのでしょうか。

ここは街で豊かに見えますが、少し離れただけで貧しい農村です。

校舎は3棟もあるので教室数は十分ではないですか。

この学校に通う生徒は706人です。教室は3棟で13室あります。でも、4室は図書館、職員室、荷物やコンピューターなどの物置、貧しい人が学び働く場所（ミシン練習など）として使っています。使える教室は9教室です。子どもたちは二部制で学んでいます。あと6教室は欲しいのです。

皆さんは校舎建設にどんな協力ができますか。例えば、円福友の会が寄贈した二つの小学校では、地元の人々が地盤のかさ上げのために、ダンプ100台もの土砂を入れたと聞きました。建設地は低いので、かさ上げしなければなりません。皆さんもそのような協力ができますか。

やります。できるだけことはやります。

工事関係者の食事などで支援はできますか。

勿論です。

（同行者から）国が作った校舎を「フンセン寄贈校舎」と呼んでいるそうですが、円福友の会が寄贈した校舎も、そのように呼ぶのですか。

円福友の会寄贈校舎と呼びます。

（同行者から）日本の小学校と姉妹提携をすることはできますか。子どもたちに日本語を教えることはできますか。

できます。

私は、校舎を造る過程で、地元の人々が結びつきを強め、協力の心を培い、地域づくりに役立つことを期待したいと思います。そして、作った校舎は、傷んだ箇所があれば地元の人々が修理して長く使用してほしいと思います。

帰り際に国が作った校舎に入れてもらいました。屋根瓦が壊れて、そこに穴が開いて光が漏れているように見えました。床にはペットボトルが散乱して、ゴミだらけでした。穴の開いた天井を指さして、あのようなところは修理できないのですかと話しました。

カンボジアの人々に、日本人の価値観を押し付けることは避けたいと思います。カンボジアの人々の価値観を尊重して、それを伸ばし世界に誇りをもってほしいと思います。ただ、カンボジアの教室や校舎が汚いには閉口します。街中もものすごく汚いです。校舎をきれいに使う、綺麗なところで勉強する、それは世界中どこでも大切なことではないでしょ

うか。今回は、このことには触れませんでした。もう一度交渉に行きます。その時は、校舎を大切に使うこと、壊れたら修理すること、学校をきれいにすること、教室をきれいにすること、ゴミだらけの教室を無くすことを約束したいと思います。それは、カンボジアの人々の価値観とは無関係に、世界共通の価値観ではないでしょうか。日本が世界に誇れる価値観だと思います。

校舎づくりを通して、カンボジアの人々と交流し、校舎を中心として心も教室も学校全体が美しい、そのような世界を作ることを成就したいと思います。

カンボジアにはお掃除によって大悟した周利槃特（チュータパンタカ）のお話はないのでしょうか。キムさんにお坊さんのお話を聞くと、カンボジアのお坊さんはお掃除をしません。お坊さんは修行に勤しむのです。だからカンボジアの人々はお掃除をさげすむのだろうかと考えてしまいました。